

愛知県豊橋市中建設駐車場経過観察

2018年8月9日作成

豊橋市は渥美湾と浜名湖に挟まった位置で養鰻が盛んな土地でもあったとも聞き及んでいます。

又、1級河川豊川の河口と海岸線に近く、細砂が5m以上も堆積した地盤で液状化の危険性が予測される土地であります。

駐車場は建設工事で使用する30t程度を積載した重車輌が毎日出入りします。

路盤強化補強が求められる特殊な駐車場でもあります。

(株)中建設はこの様な位置にあり、この度施工を実施する駐車場は1,000m²の面積を有します。

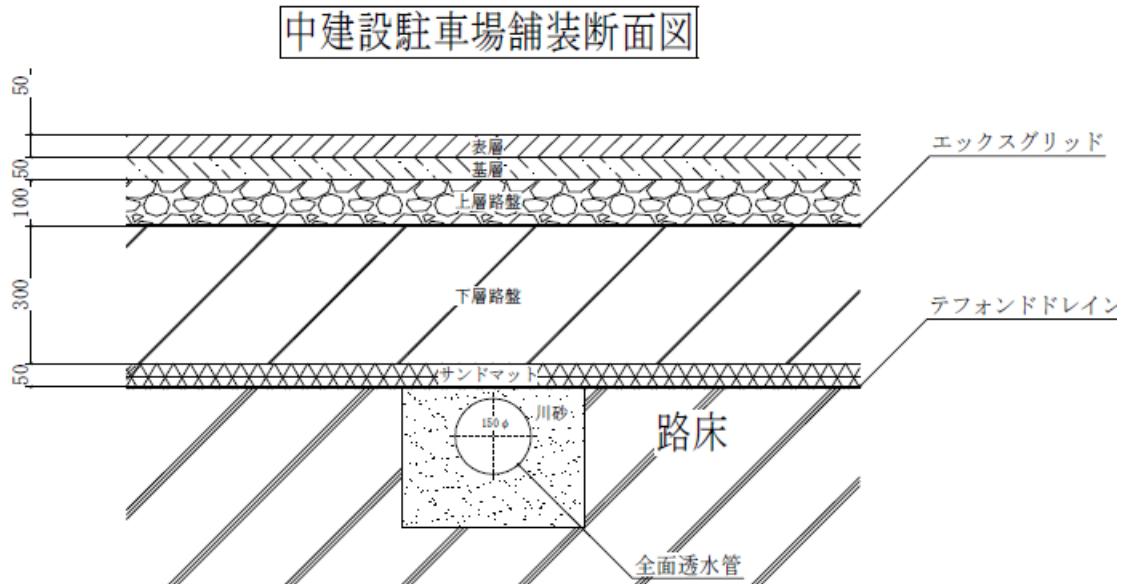
500m²をジオターフルサンド工法、残りをセメント混合による地盤改良工法として2016年10月に施工を行いました。

下図はボーリングデータです



間もなく施工後2年が経過します。

「ジオダブルサンド」工法の詳細は下図の通りである。



セメント混合による地盤改良工法は混合厚さ 500 mm、セメント混合量は 100kg/m³、舗装構成は上記図面の通り施工を実施(路床部分を地盤改良)、ジオダブルサンド工法はすべて上記図面の通りの施工を実施しています。

現在の舗装状況はアスファルト舗装の基層(t=5cm)を行ったが表層の舗装はいまだ行っていません。

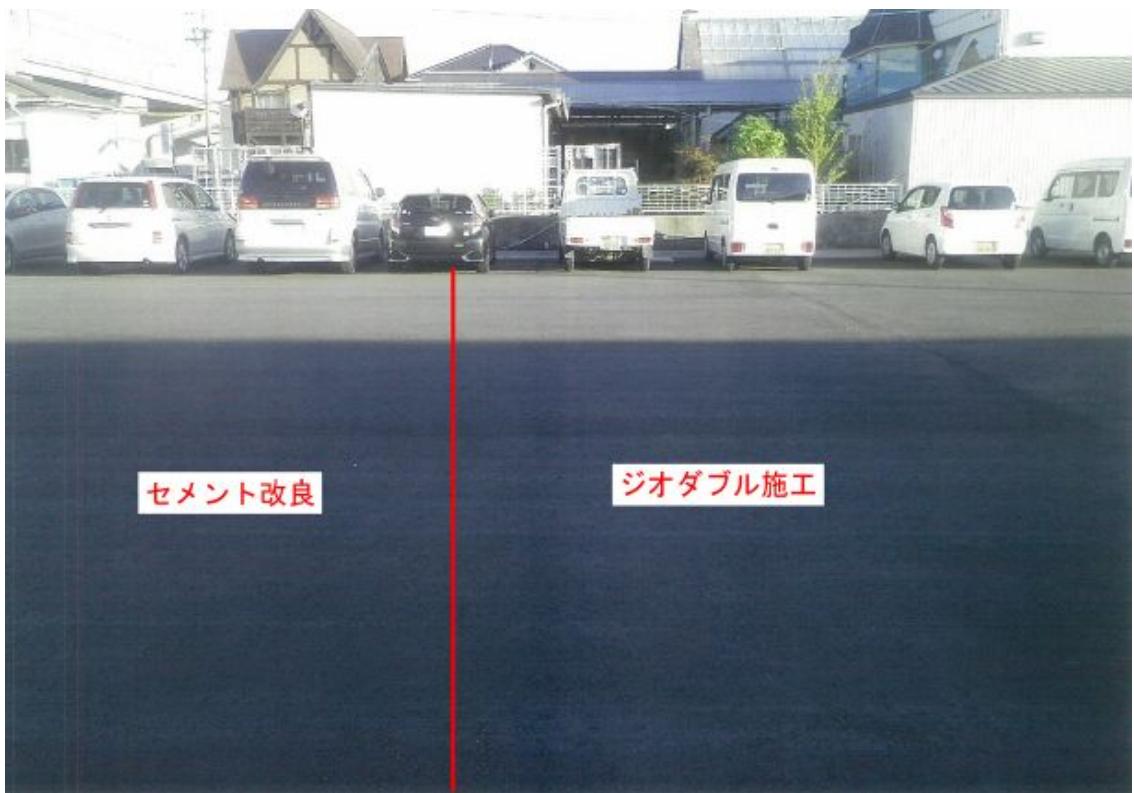
2年を経過しようとしていますが、セメント混合による地盤改良工法とジオダブルサンド工法、どちらの工法も重車両によるタイヤ痕は見られず、不等沈下も見られません。

ジオダブルサンド工法とセメント混合による地盤改良工法は同等の効果が得られたものと確信出来ます。

また、効果が同等と言うことになればあとは実施工単価の比較検討を行わなければなりません。すでに、ジオダブルサンド工法研究会ではセメント混合による地盤改良工法とジオダブルサンド工法の金額の比較検討書類を作成し、ジオダブルサンド工法の方が安価(VE 提案)で出来ることを実証してます。

下記に2年経過後の写真を添付します。

2年経過後の駐車場写真





以上の事によりジオダブルサンド工法はセメント混合による地盤改良工法と同等以上の性能を確保でき、また単価的にも優れていることが証明されます。

ジオダブルサンド工法研究会

主任研究員 三橋 康昭